

令和4年度

由布市総合計画・重点戦略プラン

進捗状況評価報告書

～令和3年度実施事業分～

※R4市民意識調査結果 反映後

総合計画審議会

(総合政策課)

総合計画(重点戦略プラン)の進行管理について

この報告書は、由布市第2次総合計画、とりわけ重点戦略プラン(13プラン)に係る行政の取り組み・進捗状況について、総合計画審議会(※外部有識者15名)による評価を実施し、今後の取組の方向性を定めるものとして活用する事を目的としています。

1. 進行管理の目的

第二次総合計画の策定方針にも掲げた1つである「進行管理、成果検証、課題分析、計画の見直しが着実に実施できる計画」に基づき、総合計画の実効性を担保するため、計画に掲載されている施策・事業の進行管理を適切に実施するための仕組みを構築し、計画の進捗状況を進行管理します。

<総合計画の特徴>

総合計画は、将来にわたって市民や行政など多様な主体の協働の基盤となる共通指針であり、第二次総合計画については次に掲げる特徴を持った計画として策定した。

- ①市民との協働による計画づくり
- ②わかりやすい計画
- ③実現性の高い計画
- ④進行管理を適切に実行できる計画づくり

2. 仕組みの構築

第二次由布市総合計画の策定時からの方針もあり、従来からの総合計画審議会の任務に加え、計画を進行管理する役割を追加し、由布市総合戦略も同時に行うことのできる進行管理機関として位置付けた。平成28年度をスタート年とし、本年の評価で6年度目

3. 進捗状況の検証

総合計画及び総合戦略の進捗状況管理を行う。

まず、行政内部においてPDCA サイクルマネジメントを実践するため、各担当部署で事務事業事後評価表を作成し内部評価を実施する。次に、総合計画審議会を開催し、作成した事務事業事後評価表をもとに担当部署も出席の上、審議会において計画の進捗状況について検証、分析を行う。

4. 検証の流れ

本年度の評価検証については、下記のとおり実施しました。

【実績】

日時	項目	内容
令和4年5月20日	総務課より 各課へ「事務事業事後評価表」作成依頼	締切日 6月3日(金) ※各課において作成・内部評価①を実施
5月27日	令和4年度第1回 総合計画審議会 開催	今年度の審議会開催内容等について
本年度の評価について コロナの感染状況を考慮しつつも、委員が適正に評価できるように開催するため、昨年度の評価が低い1項目及び委員からの希望が高い3項目の計4項目については、担当課による説明とし、その他9項目は事務局による一括説明で行う。		
7月5日	内部評価を実施	
7月21日	令和4年度第2回 総合計画審議会 開催	一括審議(9項目)
7月28日	令和4年度第3回 総合計画審議会 開催	集中審議(4項目)
8月上旬	評価表集約	
8月末	令和4年度第4回 総合計画審議会 開催	評価報告書(案)について

5. 検証手法

(1)検証の対象

第二次総合計画では、将来都市像を実現するため、6つの『まちづくりのテーマ』に14の『施策分野』、17の『施策目標』を掲げているが、進行管理を行うにあたっては、重点戦略プランを構成する13のプロジェクトについて検証を行うものとする。

(2)進捗状況の評価

市民の視点から評価する「市民意識調査」と、定量的・客観的で分かりやすい「客観指標評価」の二つの手法を用いて、客観、主観の両面から進捗状況の検証を行う。

また、「行政の取組状況」の結果と併せ、事前に行政内部において計画の進捗状況の検証、分析を行い、内部評価を実施し、外部評価委員会(総合計画審議会)において内部評価に至った経緯やその分析結果についてヒアリングを行い、今後の取組の方向性や審議会からの意見を付した上で、各分野の進捗状況を最終評価する。

① 市民意識調査(令和4年度調査分)

総合計画の現状について、市民がどのように感じているかを尋ねる市民意識調査を実施し、その結果に基づいて5段階評価を行う。評価に市民の実感、満足度という尺度を加えた市民による評価としている。

① 市民意識調査結果 評点表
「市民意識調査」(直近)結果での、該当項目に係る「重要度」「充足度」に対し平均値(四捨五入)

重要度	平均点数	充足度	平均点数
重要	5点	充分	5点
やや重要	4点	やや充分	4点
あまり重要でない	3点	やや不充分	3点
重要でない	2点	不充分	2点
分からない	1点	わからない	1点

②客観指標評価

重点戦略プランの13のプロジェクトに掲げている「目標」の実現に向けて、その達成度合いを測るモノサシとなる客観的に数値化している指標を設定している。客観指標の達成度により5段階で評価する。

②客観指標結果 評点表
「事務事業評価調書」に記載されている成果指標1つに対し

達成率	点数
90%以上	5点
60%~90%未満	4点
30%~60%未満	3点
10%~30%未満	2点
0%~10%未満	1点

指標が2つ以上ある場合は、それぞれに点数を付し、平均点(四捨五入)で換算する。

平均点数	評価	評価内容
5点	A	目標が十分に達成されている
4点	B	目標がかなり達成されている
3点	C	目標が概ね達成されている
2点	D	目標があまり達成されていない
1点	E	目標が達成されていない

③行政の主な取組状況

「目標」の実現のために市が取り組む主要な事業(重点戦略プラン)について、当年度末の成果指標を各々検証し、各担当部局において設定した目標の達成状況から自己評価を行う。

③行政取組状況結果 評点表		
「事務事業評価調書」に記載されている2次評価結果により		
点数	評価	評価内容
5点	A	継続して事業実施
4点	B	見直して事業実施
3点	C	休止
2点	D	終了
1点	E	廃止

④総合評価

①市民意識調査、②客観指標評価、③行政の取組状況を踏まえて、「目標」にどれだけ近づいているか、かつ社会情勢等を総合的に勘案し、「目指す姿」への実現に向けて設定した目標への程度進捗しているかを下記A～Eの5段階評価で内部評価を行う。

④総合評価		
①～③の合計点		
合計点	総合評価	評価内容
17点以上	A	事業・取組が十分に達成されている
12～16点	B	事業・取組がかなり達成されている
8～12点	C	事業・取組が概ね達成されている
4～7点	D	事業・取組があまり達成されていない
1～3点	E	事業・取組が達成されていない

⑤総合計画審議会の意見

審議会において取組内容・進捗状況やその分析結果をヒアリングし、審議会としての意見を付す、あるいは理由を付した上で、最終的な進捗状況の評価を行う。

⑤審議会委員 評点表		
審議会委員の評点の平均点		
点数	評価	評価内容
5点	A	事業・取組が十分に達成されている
4点	B	事業・取組がかなり達成されている
3点	C	事業・取組が概ね達成されている
2点	D	事業・取組があまり達成されていない
1点	E	事業・取組が達成されていない

(参考1：評価表)

プラン1：地域防災力強化プロジェクト

点数欄のいずれかに○を付けてください。

区分	評価点数（評価基準は別途参照）				
妥当性	5	4	3	2	1
有効性	5	4	3	2	1
効率性	5	4	3	2	1
地域性	5	4	3	2	1
協働性	5	4	3	2	1
平均点	※事務局計算				

※平均点（四捨五入）を下記に当てはめる。

点数	評価	評価内容
5点	A	事業・取組が十分に達成されている
4点	B	事業・取組がかなり達成されている
3点	C	事業・取組が概ね達成されている
2点	D	事業・取組があまり達成されていない
1点	E	事業・取組が達成されていない

事務局計算

(参考2 評価基準)

項目		評価の視点				
妥当性	行政が関与すべきか	この事業を市が行わなければならないのか 税金を投入して行うべき事業か				
	住民ニーズは高いか	住民に求められている事業であるか 社会情勢が変化し、事業の必要性が低下していないか				
	目的・対象は妥当か	事業の対象・目的は適切か 事業の対象・目的に改善の余地はないか				
有効性	事業の効果があるか	事業の目的が効果的に達成されているか 廃止・休止した場合、住民生活に多大な影響があるか				
	成果向上の可能性	成果を向上させる余地(必要)があるか 成果向上が期待できない原因は何か				
	長期計画への貢献度	事務事業の目的が、市の政策体系に結びついているか 政策目標実現のため、確実に貢献しているか				
効率性	手段は最適か	目的達成のために、他に効率的な方法がないか 類似事業との統廃合の余地はないか				
	低コスト・効率化	成果を下げずに、事業費を削減できないか 事業費を削減した場合の影響の有無と問題解決はどうか				
	受益者負担は適切か	受益者に対して、適切な負担金を徴収しているか 住民間に不公平感がないか				
地域性	市内へ適切に対応しているか	住民に対して制度周知・説明対応が行われているか				
	地域状況を把握しているか	地域実情に応じた対応は適切か				
協働性	政策間連携が図られているか	行政内部での政策間連携が調整されているか				
	市民との協働が図られているか	市民との協働について適切か				
項目		5	4	3	2	1
妥当性	行政が関与すべきか	・積極的関与 ・非常に高い	・関与すべき ・やや高い	・一定程度関与すべき ・普通	・本来関与すべきでない ・稀である	・関与すべきでない ・求められたことはない ・不適切
	住民ニーズは高いか	・非常に高い	・概ね適切	・概ね適切	・過剰/不足部分がある	
	目的・対象は妥当か	・適切				
有効性	事業の効果があるか	・非常に効果的 ・必要十分 ・大変効果的	・概ね効果的 ・概ね十分 ・効果あり	・概ね効果的 ・向上の余地あり ・貢献している	・効果的でない部分あり ・向上は難しい ・効果不明	・大半が有効でない ・向上は見込めない ・効果は見込めない
	成果向上の可能性					
	長期計画への貢献度					
効率性	手段は最適か	・最適な手段 ・最も効果的 ・適切	・ほぼ最適 ・概ね効果的 ・概ね適切	・検討する部分あり ・やや効果的 ・概ね適切	・検討する必要あり ・改善余地あり ・やや適切でない	・手法に問題がある ・他の方法がある ・不適切
	低コスト・効率化					
	受益者負担は適切か					
地域性	市内へ適切に対応しているか	・適切 ・十分	・概ね適切 ・概ね十分	・検討する部分あり ・概ね十分	・やや不十分 ・やや不十分	・不適切 ・不十分
	地域状況を把握しているか					
協働性	政策間連携が図られているか	・適切	・概ね適切	・検討する部分あり	・やや不十分	・不適切
	市民との協働が図られているか					

⑥最終判定

⑥最終評価		
④総合評価及び⑤審議会委員評価の合計		
合計点	総合評価	評価内容
21点以上	A	計画が十分に達成されている
16～20点	B	計画がかなり達成されている
11～15点	C	計画が概ね達成されている
6～10点	D	計画があまり達成されていない
1～5点	E	計画が達成されていない

由布市 総合計画 重点戦略プラン 評価結果 年次推移表 及び 評価結果まとめ

1 総合評価(市民意識+客観指標+内部評価)

プラン	プラン名	評価年度									
		H30		R1(H31)		R2(R1)		R3(R2)		R4(R3)	
		点数	判定	点数	判定	点数	判定	点数	判定	点数	判定
1	地域防災力強化プロジェクト	17	A	17	A	17	A	17	A	16	B
2	みんなで守り育てる公共交通活性化プロジェクト	14	B	15	B	15	B	14	B	14	B
3	“市民が主体！！”コミュニティ活性化プロジェクト	15	B	14	B	14	B	14	B	14	B
4	地域へ飛び出せ！健康マイレージプロジェクト	16	B	17	A	17	A	14	B	15	B
5	子どもたちを包み込む支えあい・助けあいプロジェクト	16	B	18	A	18	A	18	A	18	A
6	『由布の学び』創造プロジェクト	16	B	16	B	17	B	16	B	16	B
7	食からはじめる健康づくり。食と農の再発見プロジェクト	15	B	16	B	16	B	13	B	15	B
8	次世代につなげよう、持続可能な仕事づくり	14	B	15	B	15	B	15	B	16	B
9	滞在型・循環型保養温泉地実現プロジェクト	15	B	17	A	17	A	15	B	14	B
10	民官学の協働による豊かな水環境創出プロジェクト	15	B	16	B	17	A	16	B	15	B
11	由布ならではの移住・定住プロジェクト	15	B	16	B	16	B	15	B	16	B
12	地域プロモーション推進プロジェクト	16	B	15	B	15	B	13	B	12	B
13	ゆふツーリズム推進プロジェクト	14	B	14	B	16	B	14	B	14	B

合計点	判定	評価内容
17点以上	A	事業・取組が十分に達成されている
12～16点	B	事業・取組がかなり達成されている
8～12点	C	事業・取組が概ね達成されている
4～7点	D	事業・取組があまり達成されていない
1～3点	E	事業・取組が達成されていない

2 審議会評価

プラン	プラン名	評価年度									
		H30		R1(H31)		R2(R1)		R3(R2)		R4(R3)	
		点数	判定	点数	判定	点数	判定	点数	判定	点数	判定
1	地域防災力強化プロジェクト	3	C	4	B	4	B	4	B	4	B
2	みんなで守り育てる公共交通活性化プロジェクト	3	C	3	C	3	C	3	C	3	C
3	“市民が主体！！”コミュニティ活性化プロジェクト	3	C	3	C	3	C	3	C	3	C
4	地域へ飛び出せ！健康マイレージプロジェクト	4	B	4	B	4	B	4	B	3	C
5	子どもたちを包み込む支えあい・助けあいプロジェクト	4	B	4	B	4	B	4	B	4	B
6	『由布の学び』創造プロジェクト	4	B	3	C	4	B	4	B	4	B
7	食からはじめる健康づくり。食と農の再発見プロジェクト	3	C	3	C	4	C	3	C	3	C
8	次世代につなげよう、持続可能な仕事づくり	3	C	3	C	3	C	3	C	3	C
9	滞在型・循環型保養温泉地実現プロジェクト	3	C	3	C	3	C	3	C	3	C
10	民官学の協働による豊かな水環境創出プロジェクト	3	C	4	B	4	B	3	C	3	C
11	由布ならではの移住・定住プロジェクト	3	C	4	B	4	B	4	B	4	B
12	地域プロモーション推進プロジェクト	3	C	3	C	3	C	3	C	3	C
13	ゆふツーリズム推進プロジェクト	3	C	3	C	3	C	3	C	3	C

点数	判定	評価内容
5点	A	事業・取組が十分に達成されている
4点	B	事業・取組がかなり達成されている
3点	C	事業・取組が概ね達成されている
2点	D	事業・取組があまり達成されていない
1点	E	事業・取組が達成されていない

3 最終評価

プラン	プラン名	評価年度									
		H30		R1(H31)		R2(R1)		R3(R2)		R4(R3)	
		点数	判定	点数	判定	点数	判定	点数	判定	点数	判定
1	地域防災力強化プロジェクト	20	B	21	A	21	A	21	A	20	B
2	みんなで守り育てる公共交通活性化プロジェクト	17	B	18	B	18	B	17	B	17	B
3	“市民が主体！！”コミュニティ活性化プロジェクト	18	B	17	B	17	B	17	B	17	B
4	地域へ飛び出せ！健康マイレージプロジェクト	20	B	21	A	21	A	18	B	18	B
5	子どもたちを包み込む支えあい・助けあいプロジェクト	20	B	22	A	22	A	22	A	22	A
6	『由布の学び』創造プロジェクト	20	B	19	B	20	B	20	B	20	B
7	食からはじめる健康づくり。食と農の再発見プロジェクト	18	B	19	B	20	B	16	B	18	B
8	次世代につなげよう、持続可能な仕事づくり	17	B	18	B	18	B	18	B	19	B
9	滞在型・循環型保養温泉地実現プロジェクト	18	B	20	B	20	B	18	B	17	B
10	民官学の協働による豊かな水環境創出プロジェクト	18	B	20	B	21	A	19	B	18	B
11	由布ならではの移住・定住プロジェクト	18	B	20	B	20	B	19	B	20	B
12	地域プロモーション推進プロジェクト	19	B	18	B	18	B	16	B	15	C
13	ゆふツーリズム推進プロジェクト	17	B	17	B	19	B	17	B	17	B

1総合評価 + 2審議会委員評価の合計

合計点	判定	評価内容
21点以上	A	計画が十分に達成されている
16～20点	B	計画がかなり達成されている
11～15点	C	計画が概ね達成されている
6～10点	D	計画があまり達成されていない
1～5点	E	計画が達成されていない

まとめ

～令和3年度実施事業に係る総合計画(重点戦略プラン)の評価について(まとめ)～

今回で、6回目となる評価を実施しました。各プランの評価については別紙のとおりです。総合計画の実施全体に対して以下の意見が出されました。今後の改善をお願いします。

1)情報発信の不足

評価開始時点から継続して、指摘している事項です。情報発信は、現在のコロナ禍の状況においては更に重要となっています。各種制度の周知だけでなく、取り組み状況等についても積極的な発信を図って下さい。

2)目標・計画の適切な設定と着実な実施

計画に沿った取り組みとなっていない事業もありました。理由として、計画時点から、状況が大きく変化していることが挙げられます。特にコロナ禍の影響が大きいわけですが、終息が見通せない中で、「withコロナ」を前提とした目標値・計画の再設定が求められる分野もあると思います。必要に応じて目標値・計画の修正を行って下さい。

4)評価に際して

審議会では、各プランの評価と共に、改善に向けた方向性についてコメントをしています。次年度事業の検討の際には是非参考にさせていただき、その取りまとめた計画・内容の説明をお願いします。また前年に比べ評価が下がっているプランが多く、評価基準のうち「効率性」と「協働性」が全般的に低い傾向が見られます。プロジェクト毎に要因の分析と改善をお願いします。

5)評価方法等について

これまで6年間の評価方法については、一長一短があることがわかってきました。審議委員の選任期間や、評価対象プロジェクトの数、当審議会以外の審議機関との協働、プランごとの人員や予算投入のメリハリへの言及等について、次期(第3次総合計画)での反映ができるように、早めの準備をお願いします。

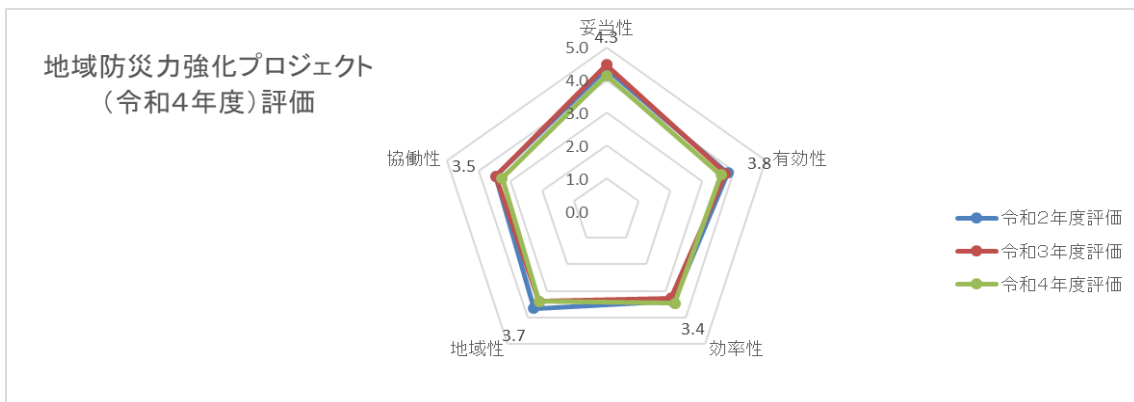
重点戦略プラン 個別評価調書

～令和3年度事業実施分～

地域防災力強化プロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	令和4年7月21日	参加審議委員数	15名
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	地域防災推進事業		説明担当課 事務局

計画	前期計画				後期計画		
事業実施年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
評価年度	H29年度	H30年度	令和元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
審議会評点合計	32点	47点	54点	56点	55点	54点	
審議会評点 (平均点)	3点 (3.2)	3点 (3.1)	4点 (3.6)	4点 (3.7)	4点 (3.7)	4点 (3.6)	



評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R4年版「市民意識調査」 問9「災害等の対応 防災対応」	R4:速報値 平均値 4.46 R1:速報値 平均値 4.66
①市民意識 (充足)	3点	R4年版「市民意識調査」 問9「災害等の対応 防災対応」	R4:速報値 平均値 3.49 R1:速報値 平均値 2.96
②客観指標結果	4点 (3.8)	(4点) 自主防災組織数 H30年度 54組織	目標 R7年度時点で 65組織 実績 R3年度末時点 57組織
		(4点) 防災士配置自治区数 H30年度 120地区	目標 R7年度時点で 120地区 実績 R3年度末時点 103地区
		(2点) 防災訓練・研修回数 H30年度 44回	目標 R7年度は 65回 実績 R3年度 18回
		(5点) 防災教育回数 H30年度 10回	目標 R7年度は 12回 実績 R3年度 17回
		(3点) 消防団訓練・研修回数 H30年度 8回	目標 R7年度は 12回 実績 R3年度 6回
		(5点) 消防団員充足率 H30年度 95.5%	目標 R7年度時点で 95.5% 実績 R3年度 90.4%
③行政取組状況結果	5点	継続して事業実施	
④合計点 (総合評価)	16点		
⑤審議会 評点	4点 (3.6)	事業・取組がかなり達成されて いる	
④+⑤合計点	20点		
⑥最終評価	B	計画がかなり達成されている	

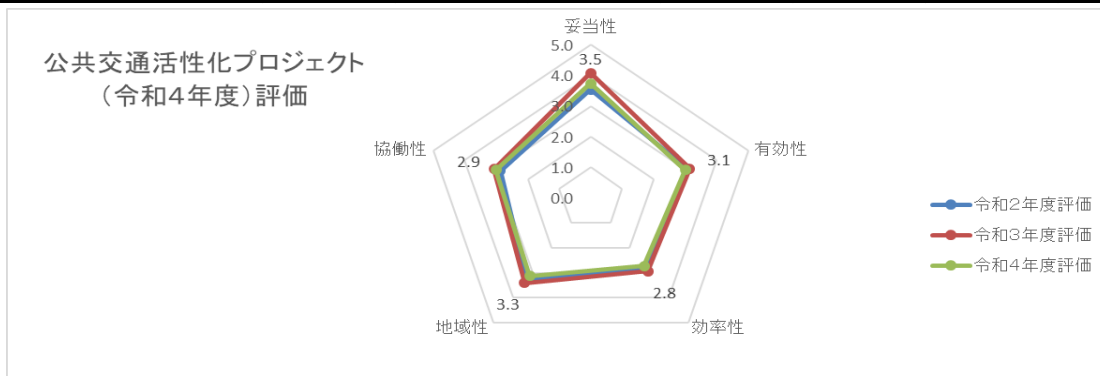
審議日	7月21日	プロジェクト名	地域防災力強化プロジェクト
コメント			
<p>防災士がいても組織のない自治区も多い、防災士は防災についての直接的な知識、技能だけでなく、コミュニティの形成や運営についても考えてもらう必要があるのでは？ 新交付金もハードだけではなく、ソフトにも使えると良い。まち協との連携は？</p>			
<p>防災計画について、市防災安全課(防災危機管理課)からのアプローチを</p>			
<p>防災士の役割や地域での活動状況を広く市民に周知するとともに、市民一人ひとりが防災の意識を持ち続ける事が大切だと考えます。そのための取り組みを継続していただきたい。</p>			
<p>住民の防災意識を高める取り組みを！！</p>			
<p>防災士の災害ボランティアへの登録を検討願います。</p>			
<p>消防団の活動もいいのかもしれないが、若い世帯(または自営業者等特定の人)にだけ負担がいつている部分もあると思う。 高齢化の進んだ地域など、消防団のなり手が減少していきそうな所は、別の方法(早めに避難するなど)を提示する事も必要なのでは？ 消防団のあり方についても見直す部分があると思う。 災害が起きそうな場所の整備やむやみな森林伐採、急傾斜のソーラーパネルなども災害の原因になりうるのか考えてほしい。</p>			
<p>一部のみに頼っている消防団は組織を維持することが難しくなっているのでは？</p>			
<p>災害弱者と言われる高齢者や高齢者施設の避難体制、孤立集落対策など、様々な状況を想像し、それに対応するための施策を全庁的に議論していくことが大切です。情報の一元化と命令系統など、庁内一体となった、防災訓練を日頃からやっておく必要があると思います。</p>			
<p>防災士の数は年々増加しているので、防災士がリーダーとなって活動できるよう、自主防災組織の活動を推進する働きかけが、もっと必要ではないでしょうか？ 交付金の活用状況はいかがでしょう？</p>			

※評価意見を正確に伝えるため、原文のまま掲載しております。

みんなで守り育てる 公共交通活性化プロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	令和4年7月21日	参加審議委員数	15名
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	実績概要参照 「地域公共交通事業」等		説明担当課 事務局

計画	前期計画				後期計画		
事業実施年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
評価年度	H29年度	H30年度	令和元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
審議会評点合計	25点	38点	49点	47点	50点	47点	
審議会評点 (平均点)	3点 (2.5)	3点 (2.5)	3点 (3.3)	3点 (3.1)	3点 (3.3)	3点 (3.1)	



評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R4年版「市民意識調査」 問10『公共交通網の充実』	R4:速報値 平均値 4.10 R1:速報値 平均値 4.51
①市民意識 (充足)	3点	R4年版「市民意識調査」 問10『公共交通網の充実』	R4:速報値 平均値 2.88 R1:速報値 平均値 2.38
②客観指標結果	3点 (2.75)	(1点) コミバスの運行に合わせたイベントの 開催を行う等の事業実施 H30年度 1回	目標 R7年度は 10回 実績 R3年度 0回
		(1点) コミュニティバス運行回数券の交付 H30年度 0件	目標 R7年度は 100件 実績 R3年度 2件
		(4点) コミバス年間利用者数 H30年度 39,356人	目標 R7年度は 45,000人 実績 R3年度 30,282人
		(5点) 免許返納者へのタクシー補助券の交 付 H30年度 112件	目標 R7年度は 120件 実績 R2年度 119件
③行政取組状況結果	4点	見直して事業実施	
④合計点 (総合評価)	14点		
⑤審議会 評点	3点 (3.1)	事業・取組が概ね達成されてい る	
④+⑤合計点	17点		
⑥最終評価	B	計画がかなり達成されている	

審議日	7月21日	プロジェクト名	みんなで守り育てる公共交通活性化プロジェクト
-----	-------	---------	------------------------

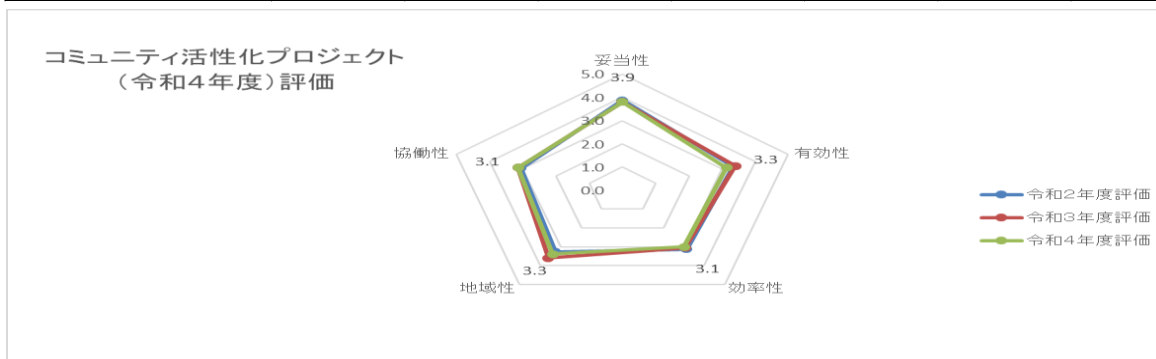
コメント
利用のニーズがないのなら、ムリに利用者数増を目的にしなくても良いのでは？JRとの連携は？ Withコロナでも出来る利用促進策もあるのでは？
3地域の状況が若干異なると思うので、それぞれの地域に合った対応（バスの大きさや路線数等）でも良いと思います。 長期的な視点で運営していただきたい。
「時刻表が見にくい」「ルートがよくわからない」等の声あり（高齢者）
効率性の向上を期待します。
難しい問題ではあると思うが、高齢ドライバーの危ない運転をしている人は多く見かける。ただ、免許返納後の生活が不便になることも想像できるので、「返納して欲しい」とだけ言えないのが現状だと思う。 コミュニティバスの運行も使いづらい。スクールバスとコミュニティバスを組み合わせで使えたり出来ないのだろうか？そうすれば運行する便を増やせて使いやすくなったりは出来ないのでしょうか？使いづらいからコミュニティバスのニーズがなくなっているのでは？ 学校への通学も送迎している家庭、タクシーの所などがあり朝の混雑時は危ないので、スクールバスを一本通してくれた方が安全でよいように思う。帰りはそのまま公民館へ寄る便があれば、子供達の遊ぶ場が出来ていように思う。
地域からの要望や調査結果の開示が必要
本当に難しい課題です。私も解決策がわかりません。
コミュニティバスの利用が年々減少しているのは残念。地域によってはデマンドバスも検討してもよいのかも

※評価意見を正確に伝えるため、原文のまま掲載しております。

“市民が主体!!” コミュニティ活性化プロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	令和4年7月21日	参加審議委員数	15名
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	地域コミュニティ形成促進事業 等	説明担当課	事務局

計画	前期計画				後期計画			
	事業実施年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
評価年度		H29年度	H30年度	令和元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
審議会評点合計	※30点	44点	51点	50点	51点	50点		
審議会評点 (平均点)	3点 (3.0)	3点 (2.9)	3点 (3.4)	3点 (3.3)	3点 (3.4)	3点 (3.3)		



評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考	
①市民意識 (重要)	4点	R4年版「市民意識調査」 問8「地域コミュニティ組織活動」	R4:速報値 平均値 3.86 R1:速報値 平均値 4.04	
①市民意識 (充足)	3点	R4年版「市民意識調査」 問8「地域コミュニティ組織活動」	R4:速報値 平均値 3.28 R1:速報値 平均値 3.33	
②客観指標結果	3点 (3.3)	(2点)	地域協議会設立 H30年度 1地区	目標 R7年度時点で 4地区 実績 R3年度末時点 1地区
		(4点)	連携による事業実施数 H30年度 1件	目標 R7年度時点で 4件 実績 R3年度末時点 3件
		(4点)	連携による地域ビジョンの作成 H30年度 1地区	目標 R7年度時点で 4地区 実績 R3年度末時点 3地区
		-	地域振興計画の策定	目標 毎年 3地区 実績 R3年度 1地区
③行政取組状況結果	4点	見直して事業実施		
④合計点 (総合評価)	14点			
⑤審議会 評点	3点 (3.3)	事業・取組が概ね達成されてい る		
④+⑤合計点	17点			
⑥最終評価	B	計画がかなり達成されている		

審議日	7月21日	プロジェクト名	“市民が主体！！”コミュニティ活性化プロジェクト
コメント			
<p>大津留、支援員、協力隊の配置 とても良いと思います。自主財源は強調しすぎず、自然に機運が高まるサポートを期待。ふるさと納税とのリンク(プラン12)に期待しています。</p>			
<p>高齢化が進み若者層が減少している中、協議会の継続した運営が重要となると思われます。しっかりした支援をお願いしたい。</p>			
<p>スピード感のある展開を期待しています。</p>			
<p>一部の地域を活性化させる目的ならいいのかもしれないが、補助金を使い切ったあとも、自主財源を確保できるようにしないと厳しいのでは？リーダー的な人達が厚すぎて下の世代がつづかないと10年先どうなるのか心配。 地域だけでなく外から企業に入ってもらおうとしないと、地域住民だけでは財源を作る所まで体制を作りあげるのは難しい気がする。</p>			
<p>コロナ禍の特殊な状況の中、大津留まちづくり協議会が今後も活動していけるように、引き続き支援が必要。</p>			
<p>これまでどおり、地域リーダーの育成が課題であるが、行政が影でしっかりサポート(最低3年以上)する。当事者意識が不可欠。行政側にも覚悟が必要</p>			
<p>リーダー育成について、より具体的な取り組みを行ってほしい</p>			

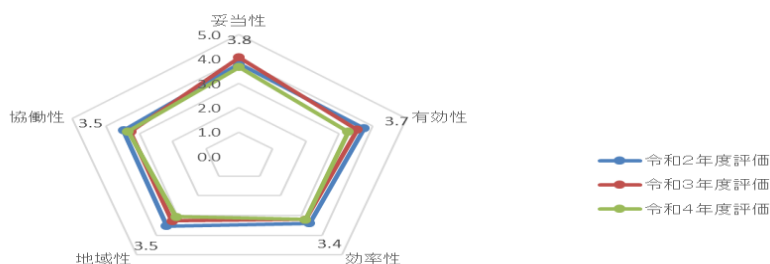
※評価意見を正確に伝えるため、原文のまま掲載しております。

地域へ飛び出せ！ 健康マイレージプロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	令和4年7月21日	参加審議委員数	15名
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	実績概要参照 「健康立市推進事業」等		説明担当課 事務局

計画	前期計画				後期計画		
	事業実施年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
評価年度	H29年度	H30年度	令和元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
審議会評点合計	39点	53点	53点	54点	52点	50点	
審議会評点 (平均点)	4点 (3.9)	4点 (3.5)	4点 (3.5)	4点 (3.6)	4点 (3.5)	3点 (3.3)	

健康マイレージプロジェクト
(令和4年度)評価



評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考	
①市民意識 (重要)	4点	R4年版「市民意識調査」 問11『地域での健康づくり』	R4:速報値 平均値 4.49 R1:速報値 平均値 4.38	
①市民意識 (充足)	4点	R4年版「市民意識調査」 問11『地域での健康づくり』	R4:速報値 平均値 3.97 R1:速報値 平均値 3.60	
②客観指標結果	3点 (2.6)	(2点)	健康マイレージ対象事業数 H30年度 35事業	目標 R7年度時点で 50事業 実績 R3年度時点 12事業
		(4点)	健康マイレージ応募者数 H30年度 972名	目標 R7年度時点で 1,500名 実績 R3年度時点 1,050名
		(2点)	健康づくりリーダー派遣者数 H30年度 延366名	目標 R7年度時点で 700名 実績 R3年度時点で 96名
③行政取組状況結果	4点	見直して事業実施		
④合計点 (総合評価)	15点			
⑤審議会 評点	3点 (3.3)	事業・取組がかなり達成されて いる		
④+⑤合計点	18点			
⑥最終評価	B	計画がかなり達成されている		

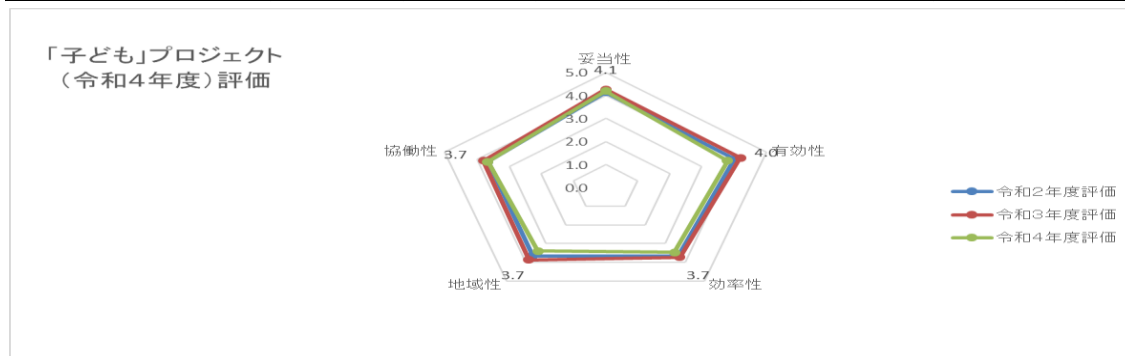
審議日	7月21日	プロジェクト名	地域へ飛び出せ！健康マイレージプロジェクト
コメント			
<p>オンラインでの研修・交流、事務所へのアプローチとても良いと思います。その部分での商工担当や教育委員会との連携が進むと良いですね。 ワクチン対応の中、ご苦労されていると思います。最終的に「健康度」や保険料などに改善がみられると良いのですが・・・ スマホ教室などと連携できると良いかも</p>			
<p>事業所へのアプローチや個人に対する取組みを実施してきているが、例えば 10,000ポイント以上を貯めた市民に表彰制度等の恩恵的な取組みを設ける事は出来ないでしょうか？又事業所単位での表彰も良いと思います。</p>			
<p>最終的には健康寿命の伸びに期待します。</p>			
<p>健康マイレージについてあんまり知らなかった。 概要(P8)だけ見ると高齢者のための活動が多いのでしょうか？ 温泉があるので温泉施設との連携や、若い世代向けの教室もあるといいのかも？もう少しどういふものをPRする必要がありそう</p>			
<p>健康に問題を抱えた中高年層は運動ができる場所を求めている。各町の健康センターがニーズに応えて欲しい。</p>			
<p>頑張っていると思うが、対象者の広がりには限界があると思う。健康寿命というのが、最近話題になっているので、「あなたの健康年齢」をキーワードに活動を広げては？</p>			
<p>地元トレーナーやトレーニングジム、ヨガ 等の専門家との連携を図ってほしい。</p>			
<p>新型コロナ感染症では、喫煙や肥満も重症化リスク因子になります。健康への意識を高めるチャンスと考えて、マイレージ事業をアピールして欲しい。オンラインでの健康づくりの推進に期待しています。</p>			

※評価意見を正確に伝えるため、原文のまま掲載しております。

子どもたちを包み込む 支えあい・助けあいプロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	令和4年7月21日	参加審議委員数	15名
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	実績概要参照 「地域子育て支援づくり事業」等		説明担当課 子育て支援課

計画	前期計画				後期計画		
	事業実施年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
評価年度	H29年度	H30年度	令和元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
審議会評点合計	36点	55点	57点	57点	60点	56点	
審議会評点 (平均点)	4点 (3.6)	4点 (3.6)	4点 (3.8)	4点 (3.8)	4点 (4.0)	4点 (3.7)	



評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R4年版「市民意識調査」 問13『子育て支援活動』	R4:速報値 平均値 4.47 R1:速報値 平均値 4.51
①市民意識 (充足)	4点	R4年版「市民意識調査」 問13『子育て支援活動』	R4:速報値 平均値 3.64 R1:速報値 平均値 3.22
②客観指標結果	5点	(5点) 子どもの居場所づくり(児童館・放課後児童クラブ等の拠点) H30年度 20施設	目標 R7年度時点で 22施設 実績 R3年度末時点 23施設
		(5点) 保育所等待機児童の数(潜在的待機を含む) H30年度 104人	目標 R7年度時点で 0人 実績 R3年度末時点 0人
		(5点) 3歳未満児の保育利用率 H30年度 44.6%	目標 R7年度時点で 48.6% 実績 R3年度末時点 48.8%
		(5点) 訪問・相談人数 H30年度 130件	目標 R7年度時点で 160件 実績 R3年度末時点 268件
③行政取組状況結果	5点	継続して事業実施	
④合計点 (総合評価)	18点		
⑤審議会 評点	4点 (3.7)	事業・取組がかなり達成されている	
④+⑤合計点	22点		
⑥最終評価	A	計画が十分に達成されている	

審議日	7月28日	プロジェクト名	子どもたちを包み込む支えあい・助けあいプロジェクト
-----	-------	---------	---------------------------

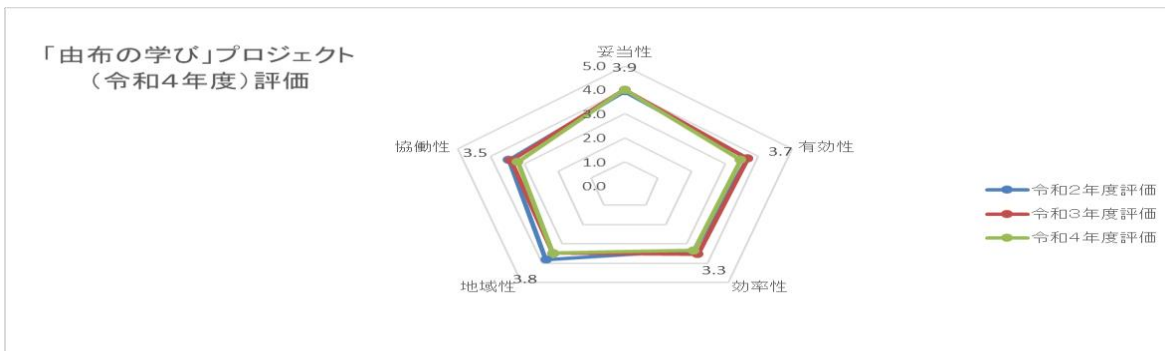
コメント	
<p>定期訪問の成果が大きい、関係部署の連携も良いと思います。コロナ後のサポーターの交流、新規サポーターの発掘に期待</p>	
<p>子育てに関する取組みは、今後も充実を図る必要があると考えます。どんな取組みでも検討し、積極的な対応を希望します。 子育ての充実は、移住等の他の施策にも大きな影響を与えるキーワードとなりますので、他の部署とも連携を強めていただきたい。</p>	
<p>幼児に対してのフォローは数年前よりも充実したように感じました。 小学校を上がった後のフォローも、もっとお願いしたい。特に庄内では子供が減って放課後友達どうして遊ばない子が多かったり、遊ぶ場所が少ないように感じます。カントリーパークも遠くてなかなか行けない。放課後小学校でそのまま遊べたりするといったと思います。 庄内は子供が減っていますが、減っているせいや環境もあって中学校は狭間へ、という子も多いです。同じ市内なので、問題はないかと思いますが、庄内の人口流出は加速していくばかりのような気がします。</p>	
<p>私が、幼保育園に子どもを預けていた頃に比べると行政のサポートがすごく充実しているなあ という印象です。担当課・関係課の努力の賜物だと思う反面、親の意見が「わがまま化」している様に思います。 『何か不便があれば行政が助けてくれる』『幼・保育園が助けてくれる』子育ては夫婦・家族・地域・行政の「役割バランス」が大事になってくるのではないのでしょうか？</p>	
<p>児童虐待やヤングケアラーなど困難を抱える子どもたちの声をもっと吸い上げる必要がある。</p>	
<p>全般的に子供への支援策は「きめ細かく、かつ丁寧に行われている」と思います。少子化の進むエリアでの課題等はあると思いますが、民間組織とも連携したりしながら対応していけば良いと思う。</p>	
<p>コロナ禍・働きながらの育児がとても難しくもあり、より充実したサポート体制と子どもへのケアが大切</p>	
<p>地域によって差があることが理解できた。</p>	
<p>親子が気軽に集まって、子育て相談ができるような場所があると良いと思います。</p>	

※評価意見を正確に伝えるため、原文のまま掲載しております。

『由布の学び』 創造プロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	令和4年7月21日	参加審議委員数	15名	
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	実績概要参照 「地域と協働する学校づくり推進事業」 等		説明担当課	事務局

計画	前期計画				後期計画			
	事業実施年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
評価年度		H29年度	H30年度	令和元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
審議会評点合計		35点	55点	52点	55点	54点	53点	
審議会評点 (平均点)		4点 (3.5)	4点 (3.6)	3点 (3.4)	4点 (3.6)	4点 (3.6)	4点 (3.5)	



評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考	
①市民意識 (重要)	4点	R4年版「市民意識調査」 問12『生涯における学び』	R4:速報値 平均値 4.10 R1:速報値 平均値 4.08	
①市民意識 (充足)	3点	R4年版「市民意識調査」 問12『生涯における学び』	R4:速報値 平均値 3.49 R1:速報値 平均値 3.12	
②客観指標結果	4点 (3.6)	(5点)	児童・生徒の「地域活動への意識調査」結果 H30年度 小:15.3% 中:15.5%	目標 R7年度時点で 小30% 中30% 実績 R3年度末 小77.2% 中57.8%
		(3点)	不登校児童・生徒の出現率 H30年度 小0.6% 中2.8%	目標 R7年度時点で 小0.3% 中1.5% 実績 R3年度末 小0.29% 中4.93%
		(3点)	「由布の学び検定」の実施 H30年度 25人	目標 R7年度時点で 80人 実績 R3年度中 33人
		(4点)	1ヶ月に3冊以上本を読む児童・生徒の割合 H30年度 小5 81.7% 中2 50.2%	目標 R7年度時点で 小83.4% 中55.5% 実績 R3年度末 小80.2% 中 52.9%
		(4点)	家庭教育支援講座 受講数 H30年度 88人	目標 R7年度時点で 135人 実績 R3年度 102人
		(3点)	地域人材派遣数 H30年度 3,383人	目標 R7年度時点で 3,700人 実績 R3年度 2,183人
③行政取組状況結果	5点	継続して事業実施		
④合計点 (総合評価)	16点			
⑤審議会 評点	4点 (3.5)	事業・取組がかなり達成されている		
④+⑤合計点	20点			
⑥最終評価	B	計画がかなり達成されている		

審議日	7月21日	プロジェクト名	『由布の学び』創造プロジェクト
-----	-------	---------	-----------------

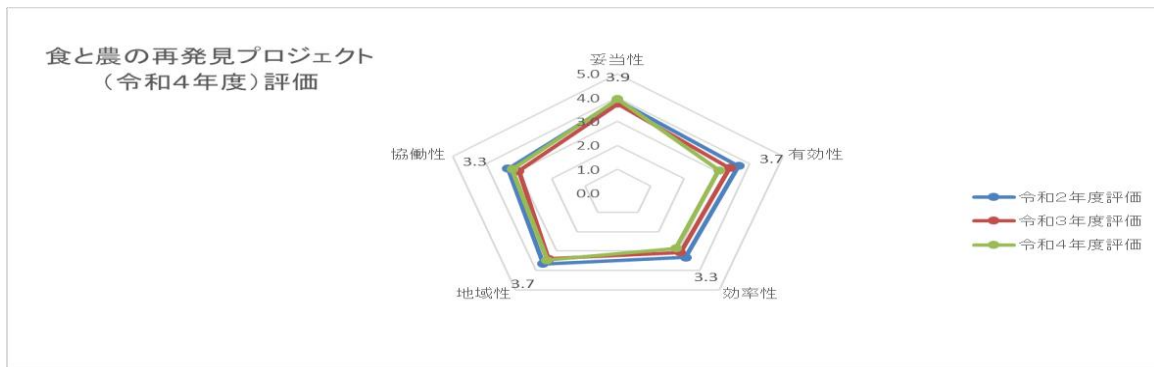
コメント
<p>公民館における中高生向けリーダー育成にもっと力を入れてほしい(小学生向けプログラムとの連続性、大人向けプログラムとの連続性 の両方を意識できると良いと思う。)、それとまち協が連携できると更に良いと思います。</p>
<p>社会教育分野での取組みを更に推進するためには、子供・親・高齢者等の幅広い世代を同時に取り込んでいく施策が必要だと考えます。</p>
<p>資料見た感じでは、いい取り組みだと思う。校種間連携や就学前・小・中をつなぐ支援等は良いと思う。</p>
<p>不登校の子どもを持つ保護者にとって教育支援センター「コスモス」の存在は大きい</p>
<p>活動の市民へのフィードバックを広めて欲しい。大人向けの観光への活用は出来ないか？</p>

※評価意見を正確に伝えるため、原文のまま掲載しております。

食からはじめる健康づくり。 食と農の再発見プロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	令和4年7月21日	参加審議委員数	15名
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	実績概要参照 「地産地消推進事業」等		説明担当課 事務局

計画	前期計画				後期計画			
	事業実施年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
評価年度		H29年度	H30年度	令和元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
審議会評点合計		34点	40点	51点	54点	50点	50点	
審議会評点 (平均点)		3点 (3.4)	3点 (2.6)	3点 (3.4)	4点 (3.6)	3点 (3.3)	3点 (3.3)	



評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R4年版「市民意識調査」 問15『農商観の連携』	R4:速報値 平均値 4.04 R1:速報値 平均値 4.14
①市民意識 (充足)	3点	R4年版「市民意識調査」 問15『農商観の連携』	R4:速報値 平均値 3.32 R1:速報値 平均値 3.11
②客観指標結果	3点	(1点) 食農教育開催数 H30年度 6回	目標 R7年度は 7回 実績 R3年度 0回
		(4点) 市内農産物使用率 H30年度 21%	目標 R7年度時点で 30% 実績 R3年度時点 22.4%
		(4点) 食文化のPR活動 H30年度 12回	目標 R7年度は 22回 実績 R3年度 19回
③行政取組状況結果	5点	継続して事業実施	
④合計点 (総合評価)	15点		
⑤審議会 評点	3点 (3.3)	事業・取組が概ね達成されてい る	
④+⑤合計点	18点		
⑥最終評価	B	計画がかなり達成されている	

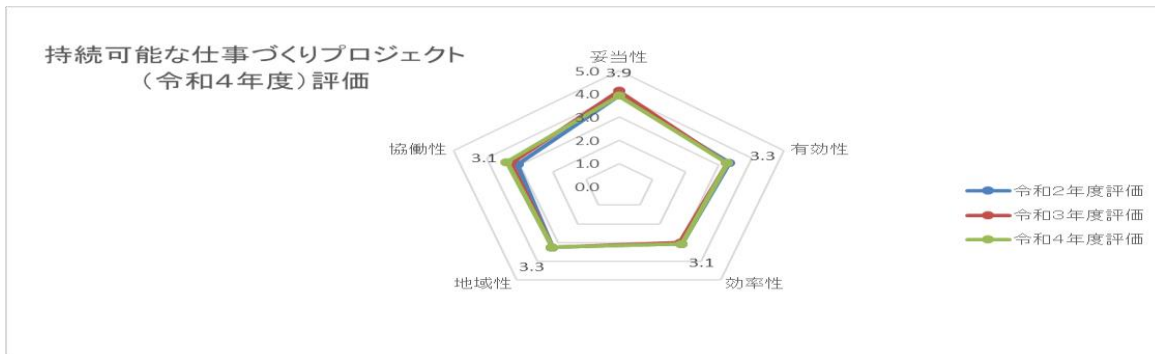
審議日	7月21日	プロジェクト名	食からはじめる健康づくり。食と農の再発見プロジェクト
コメント			
30%まで引き上げる具体策がみえない、物価高騰への対応は？こういう時にこそ、地産地消、直売所との連携を！			
<p>農家の方との連携による体験等は、非常に重要であり、今後とも幅広い年代層の取り組みが必要と考えます。</p> <p>「旬の生産物を旬に食す」イベント等の計画も検討願いたい。</p>			
<p>そもそも田が多いのに野菜を増やすことはできるのか？</p> <p>もし市で作られた野菜を増やしたいのなら、田から畑へ変えるための施策が必要なのは？それと同時に生産者の育成も必要になると思う。</p> <p>今ある特産品だけに特化するのもありなのでは？無理に由布市産の野菜を使うのではなく、地域で作っているものの説明、野菜のとれる時期の説明、「ないものはない」と伝えるのも教育では？</p>			
学校給食の地産地消について、臼杵市の取り組みを見習うべきでは？			
健康的なバランスの取れた食事についても推進してもらいたい			

※評価意見を正確に伝えるため、原文のまま掲載しております。

次世代につなげよう、 持続可能な仕事づくりプロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	令和4年7月21日	参加審議委員数	15名
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	実績概要参照 「就農支援事業/商工振興活性化事業」		事務局

計画	前期計画				後期計画			
	事業実施年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
評価年度	H29年度	H30年度	令和元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
審議会評点合計	34点	44点	51点	50点	51点	51点		
審議会評点 (平均点)	3点 (3.4)	3点 (2.9)	3点 (3.4)	3点 (3.3)	3点 (3.4)	3点 (3.4)		



評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R4年版「市民意識調査」 問14『農林畜産業の持続活動』	R4:速報値 平均値 4.16 R1:速報値 平均値 4.30
①市民意識 (充足)	3点	R4年版「市民意識調査」 問14『農林畜産業の持続活動』	R4:速報値 平均値 3.05 R1:速報値 平均値 2.86
②客観指標結果	4点	(2点) 異業種交流会の開催数 H30年度 1回	目標 年/5回 実績 R3年度 1回
		(5点) 市内新規就労・就農者数 H30年度 26人(累計 H28~H30)	目標 R7年度までの累計 60人 実績 R1~R3までの累計 64人
		(5点) 創業件数 H30年度 5件	目標 R7年度 8件 実績 R3年度 8件
		(4点) 研修先となる先進農家数 H30年度 延べ6軒	目標 R7年度時点で 延べ10軒 実績 R3年度 延べ 8軒
③行政取組状況結果	5点	継続して事業実施	
④合計点 (総合評価)	16点		
⑤審議会 評点	3点 (3.4)	事業・取組が概ね達成されてい る	
④+⑤合計点	19点		
⑥最終評価	B	計画がかなり達成されている	

審議日	7月21日	プロジェクト名	次世代につなげよう、持続可能な仕事づくり
-----	-------	---------	----------------------

コメント
コロナとはいえ、創業件数がさみしい？ 交流会に創業前の人も参加できると良い
3地域の特性を活かした(合わせた)取組みが重要だと考えますので、更に検討をお願いしたい。
農業だけでなく、企業の誘致に力をいれて仕事をつくっていくべきでは？ 企業誘致すれば、働く人も増え、人も増えればお店も増え、地域経済もまわり、人口にも影響するのでは？ (そんなに上手くいくとは思えませんが・・・) 新規就農だけでは、仕事の創出や人口増はむずかしいと思う。景色もいいし、温泉もあるし、介護施設を誘致して介護の街にするとか？
就農に限らず、成長が見込まれるベンチャー企業の誘致などをおこなう視点も必要では？
由布市には、商工観光課はあるが、観光部門については積極的に業務展開していると思われる一方、商工部門のうち、工業の部門については、もう少し情報収集し、地方展開を考える企業等の受け皿づくりを進めるべきと考える。例えば、湯布院地域においても研究機関の誘致を進めたらどうだろうか？

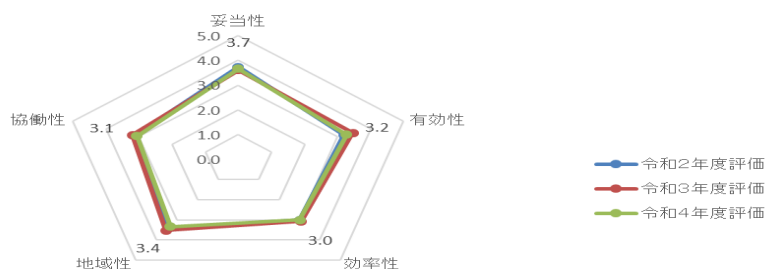
※評価意見を正確に伝えるため、原文のまま掲載しております。

滞在型・循環型保養温泉地 実現プロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	令和4年7月21日	参加審議委員数	15名
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	実績概要参照 「観光振興事業」等		説明担当課 事務局

計画	前期計画				後期計画		
	事業実施年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
評価年度	H29年度	H30年度	令和元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
審議会評点合計	26点	47点	46点	49点	51点	49点	
審議会評点 (平均点)	3点 (2.6)	3点 (3.1)	3点 (3.1)	3点 (3.3)	3点 (3.4)	3点 (3.3)	

保養温泉地実現プロジェクト
(令和4年度)評価



評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R4年版「市民意識調査」 問17『地域資源を活かした交流』	R4:速報値 平均値 3.66 R1:速報値 平均値 3.72
①市民意識 (充足)	3点	R4年版「市民意識調査」 問17『地域資源を活かした交流』	R4:速報値 平均値 3.07 R1:速報値 平均値 3.00
②客観指標結果	3点 (3.3)	(4点) 年間観光客数 H30年度 442万人	目標 R7年度時点で 450万人 実績 R3年度時点 276万人
		(3点) 観光消費額 H30年度 15,641百万円	目標 R7年度時点で 15,924百万円 実績 R3年度時点 8,851百万円
		(3点) 年間宿泊客数 H30年度 98.0万人	目標 R7年度時点で 99.8万人 実績 R3年度時点 58.1万人
③行政取組状況結果	4点	見直して事業実施	
④合計点 (総合評価)	14点		
⑤審議会 評点	3点 (3.3)	事業・取組が概ね達成されてい る	
④+⑤合計点	17点		
⑥最終評価	B	計画がかなり達成されている	

審議日	7月21日	プロジェクト名	滞在型・循環型保養温泉地実現プロジェクト
コメント			
<p>今年もコロナで評価困難。ガストロノミーをするなら、プランクとの連携強化も必要、無理に3町を循環させなくても良いのでは？（ターゲットが違う気がする）</p>			
<p>コロナの動向が大きく影響しているところですが、関係団体との連携をしっかりと取っていただき、メリハリの効いた対応をお願いしたい。</p>			
<p>このプロジェクトの名前を聞いた事があるが、実際どのように動いてどこまで出来ているのかよくわからない。わかりづらい。 外からの誘致も重要だと思うが、市民もその活動内容を知るくらい活動しないとダメなのでは？ 一部関係者だけ盛り上がっていても、住民理解がないと他人事になってしまいそう。3町合併して距離もあるし・・・</p>			
<p>まず由布市民がパックラフトを体験できるよう補助を拡大し、アピールしては？</p>			
<p>地域のイメージアップを図るためには、ゼロエミッションや景観など、地域団体と一体となった、行政のPRも必要 保存樹の指定と、樹医の派遣による保全。景観スポットのSNSでの発信など思わぬところに資源は眠っているように思われ、それを手助けするのが行政の役割と思う。</p>			
<p>アフターコロナに向け、今こそより多くの活動が必要となっている。DMOの動きを活性化させる必要がある。</p>			

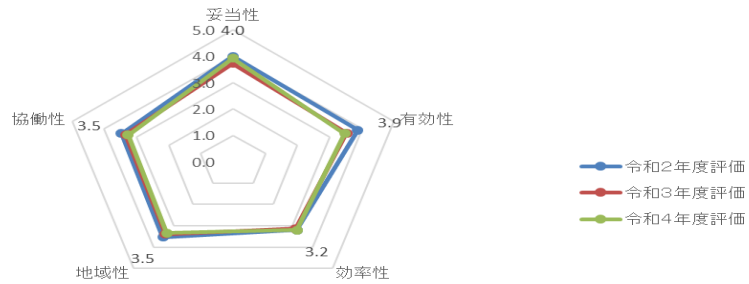
※評価意見を正確に伝えるため、原文のまま掲載しております。

民官学の協働による 豊かな水環境創出プロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	令和4年7月28日	参加審議委員数	15名
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	実績概要参照 「豊かな水環境創出事業」等		説明担当課 環境課

計画	前期計画				後期計画		
事業実施年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
評価年度	H29年度	H30年度	令和元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
審議会評点合計	34点	43点	52点	54点	51点	51点	
審議会評点 (平均点)	3点 (3.4)	3点 (2.8)	4点 (3.5)	4点 (3.6)	3点 (3.4)	3点 (3.4)	

水環境創出プロジェクト
(令和4年度)評価



評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考	
①市民意識 (重要)	4点	R4年版「市民意識調査」 問16『豊かな水資源の確保』	R4:速報値 平均値 4.49 R1:速報値 平均値 4.63	
①市民意識 (充足)	3点	R4年版「市民意識調査」 問16『豊かな水資源の確保』	R4:速報値 平均値 3.41 R1:速報値 平均値 3.02	
②客観指標結果	4点 (3.75)	(5点)	水環境創出モデル事業数 H30年度 1事業	目標 R7年度時点で 4事業 実績 R3年度 4事業
		(4点)	環境に関する学習会・イベント等開催 数 H30年度 26回	目標 R7年度時点で 40回 実績 R3年度 28回
		(3点)	環境学習の指導者数 H30年度 3名	目標 R7年度時点で 6名 実績 R3年度 3名
		(3点)	上記2つの取り組みへ参加した市民の 数 H30年度 606人	目標 R7年度時点で 800人 実績 R3年度中 318人
③行政取組状況結果	4点	見直して事業実施		
④合計点 (総合評価)	15点			
⑤審議会 評点	3点 (3.4)	事業・取組が概ね達成されてい る		
④+⑤合計点	18点			
⑥最終評価	B	計画がかなり達成されている		

審議日	7月28日	プロジェクト名	民官学の協働による豊かな水環境創出プロジェクト
-----	-------	---------	-------------------------

コメント
<p>農林整備課や教育委員会との連携に期待、特に啓発だけでなく、教委とも連携し人材育成に力を入れて下さい。</p>
<p>事業の成果が市民に見えづらいことから、広報活動を積極的に取組んでいただくとともに、小学校等での学習を通して、水資源の大切さ等を理解していただく機会の創出を増やすと良いのではと考えます。 環境全体を考慮した取組みが必要と考えます。</p>
<p>水環境創出という大きなプロジェクトなので、山のこと、林業のことなども検討する必要があるが・・・</p>
<p>環境課としては、ソフト面(広報啓発活動)+ハード面(合併浄化槽の整備 下水整備/事業所含む)。ハード面は建設課・農林整備課と連携して豊かな水環境を維持して頂きたい。</p>
<p>挾間上水道の問題は、どうなっているのですか？</p>
<p>由布市の「水」環境全般、SDGsにもつながる大きなテーマだと思うし、今後も取組みを強化していくべきテーマだと思います。 現状の人、資金等限られたリソースの中で、前向きな取組が良くできていると感じました。</p>
<p>由布市の「水」環境全般、SDGsにもつながる大きなテーマだと思うし、今後も取組みを強化していくべきテーマだと思います。 現状の人、資金等限られたリソースの中で、前向きな取組が良くできていると感じました。</p>
<p>地道に続けることが必要で、地域や学校現場との連携など、取組みを広げる工夫が求められる。</p>
<p>子ども達への環境学習は大切だと思います。指導者の育成も必要だと思います。</p>

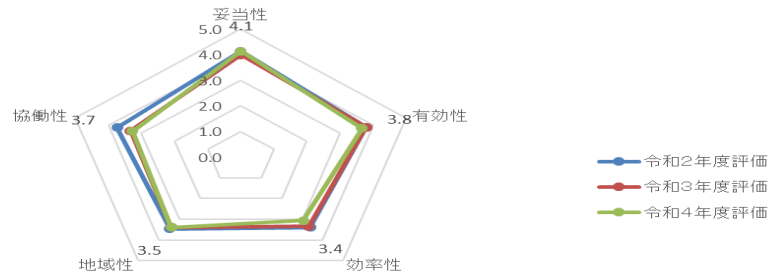
※評価意見を正確に伝えるため、原文のまま掲載しております。

由布ならではの 移住・定住プロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	令和4年7月28日	参加審議委員数	15名
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	実績概要参照 「由布市に住みたい事業」等		説明担当課 総合政策課

計画	前期計画				後期計画		
事業実施年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
評価年度	H29年度	H30年度	令和元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
審議会評点合計	35点	47点	57点	56点	54点	52点	
審議会評点 (平均点)	4点 (3.9点)	3点 (3.1)	4点 (3.8)	4点 (3.7)	4点 (3.6)	4点 (3.5)	

移住・定住推進プロジェクト
(令和4年度)評価



評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R4年版「市民意識調査」 問19『UIJターン等の推進活動』	R4:速報値 平均値 4.11 R1:速報値 平均値 4.08
①市民意識 (充足)	3点	R4年版「市民意識調査」 問19『UIJターン等の推進活動』	R4:速報値 平均値 2.91 R1:速報値 平均値 2.56
②客観指標結果	5点 (4.5)	(5点) 人口動態における社会動態の推移数 H30年度 +46人	目標 R7年度時点で 増減0人 実績 R3年度 85人
		(4点) 空き家バンクへの新規登録件数 H30年度 29件	目標 R7年度は 30件 実績 R3年度 22件
		(4点) 空き家バンク利用率 H30年度 66%	目標 R7年度時点で 85% 実績 R3年度末 64%
		(5点) 移住・定住施策を活用した移住定住者 数 H30年度 38人	目標 R7年度時点で 45人 実績 R3年度末 82人
③行政取組状況結果	4点	見直して事業実施	
④合計点 (総合評価)	16点		
⑤審議会 評点	4点 (3.5)	事業・取組がかなり達成されて いる	
④+⑤合計点	20点		
⑥最終評価	B	計画がかなり達成されている	

審議日	7月21日	プロジェクト名	由布ならではの移住・定住プロジェクト
-----	-------	---------	--------------------

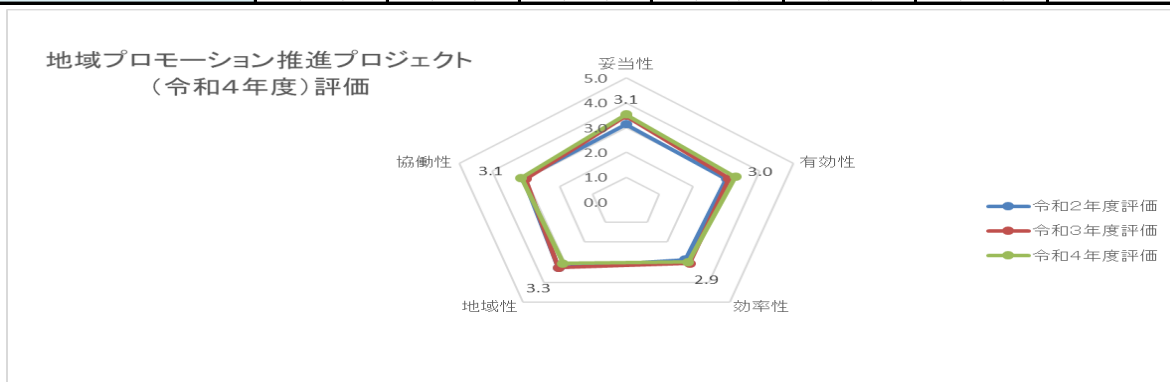
コメント
人口ビジョンとの連動、出来れば小学校区単位でまち協に財政的なインセンティブがあれば、・・・ 病院・老人ホーム・寺 など「終活」とリンクできると良い。
他の政策としっかり連携し、取組みを進めていただきたい。特に企業立地については、労働力や通信網の確保等、様々な要素があるため、3地域の特色を正確に把握し、産業別にターゲットを絞って対応する等の工夫も必要と考えます。
庄内の過疎と移住・定住プロジェクトは別問題で考えていいと思う。 移住者の職業まで追わなくてもいいと思う。民生委員が移住者の情報をそこまで知る必要があるのか？外からの人にとっては脅威では？ 定住・移住に関しては、由布市としての魅力は何なのか、移住・定住者に何が提案できるのか、もう少しまとめた方がいいのではないかと思う。他にない魅力って何なのか？（例：リタイア向けなのか、子育て世代むけなのか？ 田舎暮らしを魅力とするのか？ 仕事と住む場所が提供できることを魅力とするのか） 空き家もなかなか出ないのなら、移住・定住に力を入れるより、過疎化の問題に取り組んでもいいのかもしれないと思った。（移住・定住はほっといても来ると思う）過疎化について、このまま減少させるのか、そうでないなら町の魅力づくりから考えていけないのかと思います。 庄内はお店もすくないし、働く場も少ないように思うので、もう少し盛り上げるような仕組みが欲しいです。
コロナ禍で難しいと思うが、移住する前段階として、由布市に魅力を感じて通ってくれる人を増やすことが大事なのでは
重点戦略プランとして掲げている項目として、現状においては有効かつ妥当な取組が行われているように感じた。 由布市（挾間町）のPRを行うことなど、他施策の連携についても、目標や目的が取組として明確であり、空き家バンクなど成果指標には一定の成果が表れていると考える。
移住者の雇用の場としては、農業だけでなく、可能な限り多様な職種又は働き方を提案し、地域全体（市全体）として、受け皿を広げることが不可欠
移住者情報の共有（個人名の開示ではなく、個人の保有する技術等の開示があれば、地元企業として個別にコンタクトする可能性がある） 例：コンピュータ関連、設計技術等

※評価意見を正確に伝えるため、原文のまま掲載しております。

地域プロモーション推進プロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	令和4年7月28日	参加審議委員数	15名
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	実績概要参照 「みらいふるさと寄附金推進事業」		説明担当課 総合政策課 (財源改革推進課)

計画	前期計画				後期計画		
事業実施年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
評価年度	H29年度	H30年度	令和元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
審議会評点合計	※33点	48点	48点	46点	48点	48点	
審議会評点 (平均点)	3点 (3.3)	3点 (3.2)	3点 (3.2)	3点 (3.1)	3点 (3.2)	3点 (3.2)	



評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R4年版「市民意識調査」 問18『地域の魅力を発信』	R4:速報値 平均値 3.98 R1:速報値 平均値 4.12
①市民意識 (充足)	3点	R4年版「市民意識調査」 問18『地域の魅力を発信』	R4:速報値 平均値3.24 R1:速報値 平均値2.97
②客観指標結果	1点	-	地域の魅力を再発見・共有するイベントの開催 目標 1回/年
	(1点)	国内向けの戦略的プロモーションの試行回数	目標 延1回/年 実績 R3年度 0回
③行政取組状況結果	4点	見直して事業実施	
④合計点 (総合評価)	12点		
⑤審議会 評点	3点 (3.2)	事業・取組が概ね達成されている	
④+⑤合計点	15点		
⑥最終評価	C	計画が概ね達成されている	

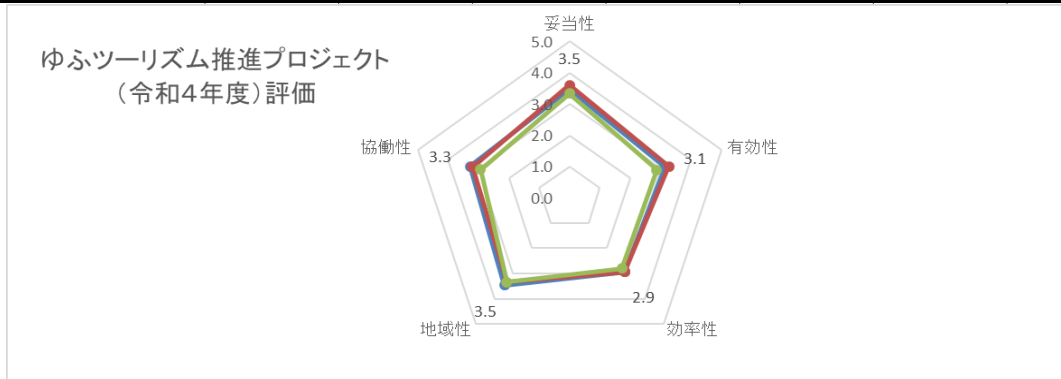
審議日	7月28日	プロジェクト名	地域プロモーション推進プロジェクト
コメント			
まずは寄附金の使い道をみがくべきでは？ぜひまち協との連携進めて下さい。			
ふるさと納税の取組みを背景とし、由布市の良いところ(風景・温泉・水資源・名産品等)をあらゆる方法により、広く発信していただきたい。			
ふるさと納税にむけてプロモーションを行っているという部分では成功していると思う。宿泊券もあって来訪者も増えていいと思う。			
市のPRにLINEの活用はもっと可能性がある。			
ふるさと納税への取組が強化されており、素晴らしいと思います。観光資源を活用したプランをぜひ今後もPRして頂きたいです。			
地域のイメージアップを図るためには、ゼロエミッションや景観など、地域団体と一体となった、行政のPRも必要 保存樹の指定と、樹医の派遣による保全。景観スポットのSNSでの発信など思わぬところに資源は眠っているように思われ、それを手助けするのが行政の役割と思う。			
HPのアクセス解析を出して欲しい。SNSも活用できているのか？今こそプロモーションを行う必要がある。			
ゆふいん旅館業の存在感を！			

※評価意見を正確に伝えるため、原文のまま掲載しております。

ゆふツーリズム推進プロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	令和4年7月21日	参加審議委員数	15名
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	実績概要参照 「地域資源活用推進事業」等		説明担当課 事務局

計画	前期計画				後期計画		
事業実施年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
評価年度	H29年度	H30年度	令和元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
審議会評点合計	19点	42点	47点	49点	49点	47点	
審議会評点 (平均点)	2点 (1.9)	3点 (2.8)	3点 (3.1)	3点 (3.3)	3点 (3.3)	3点 (3.1)	



評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	R4年版「市民意識調査」 問17『地域資源を活かした交流』	R4:速報値 平均値 3.66 R1:速報値 平均値 3.72
①市民意識 (充足)	3点	R4年版「市民意識調査」 問17『地域資源を活かした交流』	R4:速報値 平均値 3.07 R1:速報値 平均値 3.00
②客観指標結果	2点 (1.6)	(1点) グリーンツーリズム農泊数 H30年度 1,200泊/年	目標 R7年度時点で 6,000泊/年 実績 R3年度 0泊
		(3点) TIC(まちづくり観光局)利用者数 H30年度 108,243人	目標 R7年度時点で 150,000人 実績 R3年度 59,070人
		(1点) クアオルトプログラム数 H30年度 1事業	目標 R7年度時点で 2事業 実績 R3年度 0事業
③行政取組状況結果	5点	継続して事業実施	
④合計点 (総合評価)	14点		
⑤審議会 評点	3点 (3.1)	事業・取組が概ね達成されてい る	
④+⑤合計点	17点		
⑥最終評価	B	計画がかなり達成されている	

審議日	7月21日	プロジェクト名	ゆふツーリズム推進プロジェクト
コメント			
移住者による農泊に可能性がありそう(プラン11と連携)			
コロナと上手に付き合いながらの事業展開が必要であり、計画当初の予想とは大きく隔たりもあることから、場合によっては思い切った修正も必要と考えます。			
クアオルト構想って進んでいるのですか？ コロナ後、もしくは Withコロナでのグリーンツーリズムのあり方など新しいやり方が必要なのでは？ 農泊の受け入れはちゃんと利益につながっているのかよくわからない。分かりづらい 利益につながっているのなら新しい仕事創出の1つにもなりえるのでは？ それとも、リタイア後の人達の生きがいとしての役割が多いでしょうか？ それならそれで、リタイアの人達向けへの移住促進PRになるのでは？			
コロナで農泊が減少している中、受け入れ家族への支援が必要では？			
グリーンツーリズムとゆふイズムの活動活性化をより進める必要がある。			
ウイズコロナでの事業のあり方の検討が必要ではないでしょうか？			

※評価意見を正確に伝えるため、原文のまま掲載しております。